



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

3. 「ひだ国府紅しだれ」台木を用いた「白皇[®]」、「白露[®]」若木の生育特性

[要約]

岡山県オリジナル新品種「白皇（岡山PEH7号）」、「白露（岡山PEH8号）」の「ひだ国府紅しだれ」台樹は、慣行の「筑波5号」台樹と比べて、果実品質は同等のまま、樹勢、樹高及び樹冠占有面積が抑制できる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話086-955-0276

[分類] 情報

[背景・ねらい]

オリジナル新品種の「白皇」と「白露」は、県下全域での普及が見込まれているが、樹勢が強いため、樹高が高くなりやすいことが想定される。このため、樹勢をやや抑制する特性を持つ「ひだ国府紅しだれ（以下、紅しだれ）」の利用が有望と考えられる。そこで、「白皇」、「白露」に「紅しだれ」台木を用いた場合の若木時の生育特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 樹高は、「白皇」では6年生時から「紅しだれ」台樹の方が慣行の「筑波5号（以下、5号）」台樹と比べて約60cm低く、「白露」では、5年生時から「紅しだれ」台樹の方が約80cm低い（図1、図2）。
2. 樹冠占有面積は、両品種とも「紅しだれ」台樹が「5号」台樹と比べて8～9割程度で推移し、樹冠の拡大をやや抑制できる（図1、図2）。
3. 平均収穫日は、「紅しだれ」台樹で「5号」台樹より約2日早い傾向にある（表1）。
4. 果実重は、台木間に大きな差がない（表1）。糖度は、「紅しだれ」台樹で「5号」台樹よりやや高い傾向がある。一方、生理障害の発生には、明らかな台木間差が認められない（表1）。
5. 凍害による主幹障害や春季の樹の衰弱は、いずれの樹でもみられていない（データ省略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「白皇」、「白露」で「紅しだれ」台木を利用する場合、1樹当たりの樹冠占有面積がおおむね8～9割と小さくなることから、慣行台樹と同様の樹冠占有面積、収量性を確保するには、慣行台樹の12樹/10aに対して、14～15樹/10aに栽植本数を増やす必要がある。
2. 上記以外の穂木品種に「紅しだれ」台木を利用する場合でも、樹勢がやや抑制できると考えられるが、生育特性は穂木品種によって異なる。
3. 「紅しだれ」台苗木は、岐阜県と利用許諾契約を結んだ苗木業者から購入できる。
4. 本試験は、農研圃場（典型台地褐色森林土）において、岡山県栽培指針に準じて2本主枝の開心自然形に仕立てて栽培した結果である。



[具体的データ]

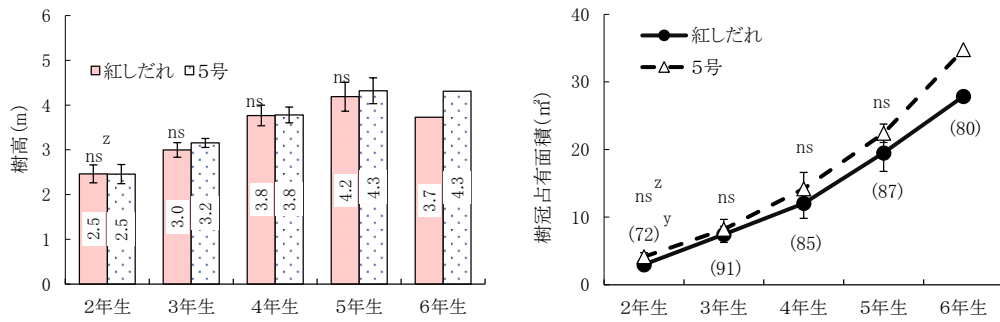


図1 台木の違いが「白皇」の樹高(左)と樹冠占有面積(右)に及ぼす影響(2～6年生)

注) 5年生時まではn=4、6年生時は計画的間伐によりn=2

z nsは5%水準で有意差なし(t検定、n=4)(表中のバーは標準偏差を示す)

y ()内の数値は「筑波5号」台を100としたときの「ひだ国府紅しだれ」台の割合

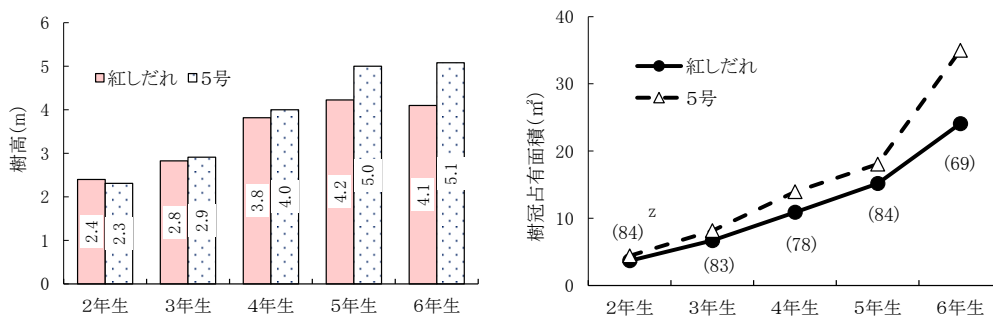


図2 台木の違いが「白露」の樹高(左)と樹冠占有面積(右)に及ぼす影響(2～6年生)

注) 5年生時まではn=2、6年生時は計画的間伐によりn=1

z ()内の数値は「筑波5号」台を100としたときの「ひだ国府紅しだれ」台の割合

表1 台木の違いが「白皇」、「白露」の収穫日、果実品質及び生理障害の発生に及ぼす影響(3～6年生)

処理区		平均 収穫日	果実重 (g)	糖度 (° Brix)	果実 硬度 (kgf)	渋み ^z (0～4)	核割 れ果 (%)	水浸状果 肉褐変症 ^z (0～4)	果梗内亀 裂小果 ^y (%)
穂木	台木								
白皇	紅しだれ	8月17日	343	15.3	1.0	0.1	10.3	0.1	21.3
	5号	8月19日	344	14.6	1.1	0.1	10.2	0.1	22.7
有意性 ^x		—	ns	ns	ns	ns	ns	ns	ns
白露	紅しだれ	8月27日	400	14.0	1.1	0.2	0.1	0.5	—
	5号	8月29日	388	13.8	1.3	0.2	0.1	0.3	—
有意性 ^x		—	ns	ns	ns	ns	ns	ns	—

^z 渋みは官能、水浸状果肉褐変症は達観により5段階評価(0:無、1:微、2:少、3:中、4:多)^y 「白露」は未調査^x nsはt検定により5%水準で有意差なし(発生率は、アークサイン変換後に検定)

[その他]

研究課題名: 新樹形によるモモの低樹高・軽労化栽培技術の開発

予算区分・研究期間: 県単・令2～6年度

研究担当者: 河村美菜子、樋野友之、荒木有朋、鶴木悠治郎、佐々木郁哉

関連情報等: 1) 藤井ら(2014) 近畿中国四国農研、24:35-42

2) 河村(2020) 園学研、19別1:261

3) 試験研究主要成果、平28(7-8、9-10)、平29(11-12)